

民主島根

2021年
7.18
第1388号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

都議選勝利を力に総選挙での躍進を 選挙区勝利、比例中国の議席奪還を

出雲 むこせ 島根2区 事務所開きで大平 前衆院議員 訴え

総選挙で市民と野党の共闘勝利、中国ブロックでの大平よしのぶ前衆院議員の議席奪還をと、むこせ慎一島根2区予定候補の事務所開きが11日、出雲市で行われ、50人が参加しました。

上代善雄県委員長は「国民の願いに応えた政策を訴え抜けば、選挙区でも比例でも共産党の躍進と野党連合政権は実現できる」と強調しました。オンラインで参加した大平氏は、島根2区内すべての自治体を訪れ、声を聞いてきたことを紹介し、「渦巻く願いをまっすぐ届けられるよう、むこせ予定候補、みなさんと力を合わせて全力で頑張る」と決意を述べました。むこせ氏は「自民党政治はふるさとや地方を切



参加者と勝利を誓い合う(右から)むこせ、上代、大國の各氏(出雲市)



原子力規制委員会が6月23日の定例会合で中

島根原発再稼働するな

共産党が県庁前で緊急宣伝

「島根で暮らし続けられるために、最低賃金の引き上げ、農林水産業の底上げ、島根原発再稼働ストップ、米軍低空飛行訓練中止などを訴えて頑張り抜く」と力を込めました。

原子力規制委員会が6月23日の定例会合で中

2区選対責任者の大國陽介県議は、集いの開催や対話、SNS発信の強化とともに、後援会員など担い手を増やす活動に力を尽くすよう呼びかけ、「直ちに足を踏み出そう」と訴えました。

国電力島根原発2号機の再稼働に必要な安全対策をまとめた審査書案を了承し、事実上の合格となったことを受け、同日、日本共産党の上代善雄県委員長、岩田剛東部地区委員長、尾村利成、大國陽介の両県議、田中肇、舟木健治、橋ふみ各市議が県庁前で緊急宣伝しました。「合格」は、事故を起こした東京電力福島第1原

島根原発2号機再稼働とめよう

松江 原発ゼロの会が総会ひらく

発と同じ沸騰水型では5基目。今後、一般の意見公募(7月23日まで)などを経て、今秋にも正式合格が見込まれています。尾村県議は、①島根原発直下には140キロもの活断層(宍道断層39キロ、鳥取沖断層98キロ)が走っ

原発ゼロをめざす島根の会は4日、松江市内で総会を開きました。島根原発2号機再稼働を巡って、原子力規制委員会が今秋にも審査書を正式決定し、正式合格するといわれており、中国電力は年内にも地元同意手続きに入るとみられています。岡崎由美子共同代表(弁護士)は「審査に合格して

ている②実効ある避難計画は未策定③不正・不祥事を繰り返す中電に原発を運転する資格はないなどを指摘し、「総選挙で日本共産党の躍進と市民と野党共闘の勝利で『原発ゼロ基本法』を可決させよう」と訴えました。

も原発の安全性を保証するものではない」と強調し、「パブリックコメントに積極的に意見を出そう」と挨拶。県や松江市などに対し、2号機の再稼働判断時に住民の意思がより反映されるよう幅広い団体・個人に呼びかけて「住民投票条例直接請求運動」に取り組みなどを確認しました。

豪雨災害 地方議員先頭に各地を調査

むこせ氏、出雲市で要望聴取

7日未明から県内を襲った豪雨で被災されたみなさまに心からのお見舞いを申し上げます。



県内では11日15時現在、松江市では床上浸水6棟、床下浸水75棟、出雲市で床上浸水15棟、床下浸水47棟、一部破損8棟、安来市で床上浸水4棟、雲南、益田両市で床上浸水が1棟などの被害が発生しています。日本共産党は、災害発生直後から地方議員ら先頭に現地調査し、被害の実態把握に努めてきました。引き続き、一刻も早い復旧に向けて力を尽くします。11日には、むこせ慎

一衆院島根2区予定候補、大國陽介県議が出雲市で被災者を見舞い要望を聴取しました。(写真)大雨で水位が上がり、濁流が氾濫した稲佐川(大社町杵築北)のすぐ近くで暮らす女性は「1997年、2019年8月の豪雨の時と同様に、今回も川の土砂流出や転石が発生して浸水した。今回で3回目。これ以上被災しないよう何とかしてほしい」と要望する女性に対し、むこせ、大國の両氏は「十分な対策が講じられるよう、引き続き求めていきたい」と応えました。

鼓動

もうすぐ「古希」を迎える。杜甫の詩「人生七十古来稀なり」が語源という。孫から「じいちゃん」と呼ばれた時にはさほど歳を意識しなかったが、市役所から「高齢者バス割引シール」が届くとさすがに「ついに高齢者か」と実感せざるを得ない▼さて、老後をどう生きるべきか。これと言った趣味もなく、友人のように余生を農業に打ち込む田畑もその気力もない。ブラブラしていたのではお天道様に申し訳ないと思ひ、この数年は県内を散策しながら拙い書き物をしてきた。そして今は、ライフワークにたりくんでいられる▼高校時代に悪友から「青大将」とあだ名された。当時、一世を風靡した映画「若大将シリーズ」で、主役・加山雄三の敵役・青大将の田中邦衛に「タレ目がそっくり」と。多感な青春期だけに、三枚目役者似といわれたいく憤慨した。その田中邦衛さんが先頃亡くなった。享年88歳だった▼名画「学校」で、夜間中学で読み書きを学ぶ初老の「イノさん」役に抜擢した山田洋次監督は「演技する以前にまずはカメラの前人間としてデンと存在した貴重な俳優で、ロケ地には誰よりも早く入り、その場に馴染んだ演技を心がけた」と田中さんを追悼した▼この10年、俳優として表に出ていなかった。週刊誌の記者から「引退したのか」と聞かれた妻は「引退も何も、田中邦衛の人生そのものが役者です。だから」と答えたという。死ぬまでずっと役者であり続ける。なんとすばらしい生き様だろうか。若き日のあだ名への憤慨は、今は誇りへと変わり、田中さんのように存在感のある老後を生き抜きたいと思う。(吉)